

中 日 新 聞

200人 高らか「第九」合唱

掛川市内外の小中高生やアマチュア合唱団、県ゆかりの若手アーティストが共演する「ふじのくに ユニバーサル ミュージック フェスティバル 歓喜の祭典、」（ふじのくに文教創造ネットワーク主催、中日新聞東海本社など後援）が8日、掛川市生涯学習センターで開かれ、満席の会場600人余を魅了した。（佐野太郎）

掛川でフェス 高校生やアマら共演

第九を高らかに歌い上げた「歓喜の祭典」のフィナーレ 掛川市で



満席の会場600人を魅了

四部構成でピアノと電子オルガン、吹奏楽、合唱などが繰り広げられ、特別企画として東日本大震災復興支援曲の合唱や富士山の世界文化遺産登録を記念して作曲された「ふじのくに讃歌」が初演された。

最後のステージでは、「歓喜の歌」として親しまれるベートーベンの交響曲「第九」が披露された。西尾舞衣子さん（ソプラノ）、萩原順子さん（アルト）、石原久章さん（テノール）、竹内利樹さん（バリトン）の四人のソリストと「かけがわ第九を歌おう会」、掛川西高音楽部・吹奏楽部、遠江総合高吹奏楽部、掛川東高合唱部の総勢三百人が、掛川西高の佐藤真澄教諭の指揮で高らかに歌い上げた。

来場者の一人は「第九の合唱は何度か聴いているが、吹奏楽とでは初めてで、とてもよかった」と話していた。

（写真）第4部 21回目の第九ステージ

ふじのくに文教創造ネットワーク